



## H7N9 予防にはセルフガードを 市 CDC

北京市疾控中心 www.bjcdc.org 2017-04-14

来源：宣传中心-市疾控中心

今年に入ってから、我が国の多くの地で H7N9 患者が出ている。

2017 年 04 月 13 日までの時点で、北京市では今年合計 6 回の H7N9 鳥インフルエンザが報告されており、7 名の患者を出している (宮本注：下線は訳者) る。3 名は当地の患者、4 名は北京以外の地からの輸入性症例だ。うち、04 月 05 日に報告された 2 名は、調査により集中して発生したものと判定された患者だが、これは北京で発生した初の集中発生症例となる。2 名には共同の暴露歴があり、そのうち 1 名はすでに死亡、もう 1 名は病院で治療を受けているが病状は基本的に安定している。4 名の北京市輸入症例中 2 例が河北省廊坊市、1 例が河北省秦皇島市 (本籍地は遼寧)、1 例が山東省青島市からの輸入患者となっている。2016 年同期、北京市では H7N9 鳥インフルエンザ患者の報告はなかった。

北京市で発生した 3 例の当地 H7N9 鳥インフルエンザ患者中、3 人には等しく活禽への暴露歴があり、調査により、感染源は全てこれらの患者が屋台で販売或いは飼育されていた活禽を購入してきていたことが判り、これらの活禽が河北省の移動販売から来ているものだと示していた。これらから、北京市はこの先も散発的な患者が当地で発生することがあり得るし、少量の集中発生が起こることも排除できない。外地からの患者数も多くみられており、輸入性患者が見つかるリスクも高レベルにある。

### 日常生活ではどのように H7N9 を予防するか？

H7N9 の予防には、(鳥類への) 暴露を減らし、個人防御をしっかりと、良好な衛生習慣を保つこと。この点に関する市民へのアドバイスは：

1. 鳥類や獣には極力接触しないこと；
2. 正規チャンネルで凍鮮鳥肉を購入し、鳥の肉やタマゴを食用する場合には十分加熱し、生のものと加熱するものは分けること；
3. 病死した鳥類には極力触れないこと、農家で遊ぶ際には鳥類の屠殺現場には近寄らないこと；
4. 特に活禽を交易しているような市場には行かないこと；
5. 手洗いを励行し、個人の衛生に注意し；飲食と起居を合理的にし、十分な栄養と睡眠をとること；適時衣服の量を変えるように注意すること。

### 鳥類と濃厚接触のある人たちはどのように H7N9 を予防するか？

現時点で既に活禽への接触と活禽市場が H7N9 の重要なリスクファクターであるというエビデンスがある。気道を通じて、或いはウィルスを携帯している家禽やその排泄物または分泌物に直接接触することで H7N9 ウィルスに感染するというのが主要な感染ルートとなっている。主に下記ルートで感染：

鳥インフルエンザウィルスを含んだ飛沫或いは飛沫核の吸入；鳥インフルエンザウィルスに感染した鳥類への直接接触、或いはその分泌物と排泄物への直接接触；鳥インフルエンザウィルスに汚染された物品や環境への間接触。

1. 鳥類愛好者はどのように予防する？
  - (1) 飼育の管理を強化し、鳥類の抗ウィルス力を上昇させる；鶏舎の衛生と清潔に注意する；鶏舎の通風を確保する；鶏舎や鳥かごなど特に衛生に注意を払い、日常の消毒をしっかりとる。
  - (2) 家で小鳥を飼育する時には、小鳥と野禽類との接触を避けること。もし接触した場合には、速やかに鳥かごを消毒し、必要であれば、動物防疫部門に処理をしてもらう。
  - (3) 小鳥を飼育、或は野鳥観察の蔡、鳥類およびその糞便への接触を避けねばならず、糞便の処理の際には手袋を着用すること；もし鳥や鳥の糞便に接触した場合には必ず石鹸と清水で徹底的に両手を洗うこと。
  - (4) 野鳥観察の中において、死んでいる鳥を拾わない、野生の鳥類を食用しないこと。
2. 鳥類関連従業員はどのように予防する？
  - (1) 鳥類に接触するような活動過程においては、個人の防護をしっかりと、鳥類との直接的な接触を減らすこと。
  - (2) 鶏舎の清掃の際には、清掃と消毒のプログラムを厳格に実施すること；清掃完了後には、

速やかに手を洗い、消毒すること；体が鳥類の汚物に接触した場合には、徹底的に洗浄すること。

- (3) 病死した鳥を発見した場合、速やかに現地動物検疫部門に処理を依頼すること。
- (4) 発熱や咳、のどの痛み、全身の不快感等の症状が場合、マスクをしてすぐにホットライン外来を受診、主体的に医師に対し自分の『職業と発症前の活動歴』を告げること  
(これを市民に要求しながら、市民に対して『職業』や『暴露歴』を市民に発表しないという政府側の姿勢には問題が残る！！)
- (5) 手洗いの励行、室内の通風換気の確保、栄養への注意、十分な睡眠と休息、体の鍛錬強化。

### 3. 鳥類の加工スタッフはどのように予防する？

- (1) 家禽の処理のための諸設備諸器具の清掃と消毒を常に行い、手洗いをすること。
- (2) 鳥の肉を処理する際は、生と加熱の仕分けをすること。特に器具や皿、容器などには特に生ものと加熱分の仕分けを行うこと
- (3) 食品の煮炊きの温度をしっかりと確保すること、鳥インフルエンザウィルスは普遍的に熱に対しては敏感であるが、低温に対する抵抗力は強いのである。65℃で30分加熱、或は100℃で2分間以上煮沸することでウィルスは死んでしまうので、完全に熱を通した家禽や豚肉などは全て食用することができる。
- (4) 手に傷があって肉類を処理する際には手袋の着用を提案。

**Since the beginning of this year China has so many H7N9 cases found in so many areas.**

**Up to Apr. 13, 2017, Beijing city had 6 H7N9 AVI reports, where 7 cases are involved. 3 cases are inside Beijing city, 4 cases are imported from outside of the city. Among them, reported two cases of Apr. 5 are judged as an aggregate epidemic ones. 2 had a common exposition; one of them has already died and another one is now in a hospital for treatment, he is basically stable.**

**Among 4 imported cases, 2 are from Langfang city of Hebei, 1 is from Qinhuangdao city of Hebei (though his registered address is Liaoning province), the last 1 is from Qingdao city of Shandong. If compared to the same period of 2016, Beijing city, at that moment, had no cases.**

**Among Beijing city's 3 domestic cases, everyone had contacts to the live poultry(s). Our investigation found the source is from Langfang (Hebei province) city's mobile trader(s) or from live poultry(s) which they fed. These live poultry(s) are all from the Henan provincial mobile traders. From these factors, we Beijing will have some sporadic cases in the future and we cannot exclude the risk of few aggregate epidemic. Further, we Beijing has not a few cases imported from outside of Beijing city, which shows the risk of imported cases is still in high level.**

<http://www.bjcdc.org/article/44564/2017/4/1492170179126.html>

..... 以下は中国語原文 .....

## 预防 H7N9，重在自我保护

北京市疾控中心 www.bjcdc.org 2017-04-14

来源：宣传中心-市疾控中心

今年以来，我国多地出现 H7N9 病例。

截止到 2017 年 4 月 13 日，我市今年共报告 6 起 H7N9 禽流感疫情，涉及 7 例病例。3 例为本地病例，4 例为外地来京就诊的输入性病例。其中，4 月 5 日报告的 2 例病例经调查判定为一起聚集性疫情，是我市首起本地聚集性疫情，2 例病例有共同暴露史，其中 1 例已死亡，另 1 例正在医院治疗，病情基本稳定。在 4 例外省输入病例中，2 例来自河北廊坊、1 例原籍辽宁现住河北秦皇岛、1 例来自山东青岛。2016 年同期，我市未报告 H7N9 禽流感病例。

北京市发生的 3 例本地 H7N9 禽流感病例中，均有活禽接触史，调查发现感染来源均来自于这些病例购买流动商贩或饲养的活禽，这些活禽最终来源均指向河北省流动商贩。鉴于此情况，我市未来还有可能出现散发的本地病例，不排除出现少量的聚集性疫情。加之我市外地来京就诊病例人数众多，因此出现输入性病例的风险仍维持在较高水平。

### 日常生活中如何预防感染 H7N9?

预防 H7N9，最重要的是减少暴露、做好个人防护，养成良好的卫生习惯。在此提醒大家：

- 1、要尽量避免接触禽畜；
- 2、从正规渠道购买冰鲜禽肉，食用禽肉蛋时要充分煮熟，并注意生熟分开；
- 3、尽量避免接触病死禽，在农家乐游玩时注意远离禽类屠宰现场；

- 4、 特别避免去有活禽交易的市场；
- 5、 勤洗手，注意个人卫生；合理饮食起居，保证充足的营养和睡眠；注意适时增减衣服。

#### 与禽接触密切的人群如何预防 H7N9？

目前已有证据提示接触活禽和活禽市场是感染 H7N9 的重要危险因素。经呼吸道或直接接触携带病毒的家禽及其排泄物、分泌物可能是感染 H7N9 病毒的主要传播途径。主要通过下列途径感染：吸入含有禽流感病毒的飞沫或飞沫核；直接接触禽流感病毒感染的禽类或其分泌物和排泄物；间接接触被禽流感病毒污染的物品和环境。

##### 1、禽类爱好者应如何预防 H7N9？

- (1) 加强饲养管理，提高禽类抗病力；注意笼舍的卫生清洁；保证笼舍的通风；鸽舍、鸟笼要特别注意卫生，注重日常消毒。
- (2) 家中饲养雀鸟，应避免它们与野禽接触。一旦接触后，要及时给鸟笼消毒，必要时还要到动物防疫部门进行防疫。
- (3) 在养鸟或者观鸟时要尽可能避免接触禽类以及其粪便，处理粪便时应戴上手套；接触它们或它们的粪便后，必须用皂液和清水彻底清洁双手。

(4) 观鸟过程中不捡死鸟，不吃野生禽鸟。

##### 2、禽类从业人员应如何预防 H7N9？

- (1) 在进行接触禽类的工作活动过程中，应做好个人防护，减少与禽类的直接接触。
- (2) 清洁禽舍时，要严格执行清洁和消毒程序；清洁完毕后，要及时彻底的洗手和消毒；当身体接触禽类污物时，也要彻底的清洗。
- (3) 当发现病死禽时，并及时通知当地动物检疫部门处理。
- (4) 当出现发热、咳嗽、咽痛、全身不适等症状时，应戴上口罩，并尽快到发热门诊就医，并主动告之医生自身职业和发病前的活动史。
- (5) 保持勤洗手、室内勤通风换气、注意营养，保证充足的睡眠和休息，加强体育锻炼。

##### 3、禽类加工人员如何预防 H7N9？

- (1) 经常清洁和消毒用于家禽准备的所有工作台、设备和器具，经常洗手。
- (2) 处理禽肉时要做到生熟分开。特别是一些器皿，容器也应注意生熟分开。
- (3) 确保将食品烹调到适当的温度，禽流感病毒普遍对热敏感，对低温抵抗力较强，65℃加热 30 分钟或者煮沸（100℃）2 分钟以上可灭活，完全熟透的家禽/猪肉等是可以食用的。
- (4) 当手部有破损处理肉类时，建议佩戴手套。

相关链接：